



まちしるべ 23

東条原鷲宮神社

所在地 宮代町大字東条原字宿屋敷

東条原鷲宮神社は、かつて東条原村の村社で、祭神は天穗日命・宇迦能御魂命の二柱を祀る。明治時代初頭に東条原村内にあった神明社、雷電社、御手洗社、稻荷社（字大崎）を合祀し、明治四十年（一九〇七）に稻荷社（字洪谷）を合祀した。本殿や御神体は、昭和四十七年（一九七二）に焼失したが、現在の御神体は、白岡町（現白岡市）の仏師・彫刻家である立川金禄が作成した。

当社では、延享二年（一七四五）頃より始まったと伝えられる獅子舞が毎年七月十六日に行われていた。三頭の獅子を中心に、梵天を始めとする八通りからなる優雅な舞を社前にて奉納していた。合祀前は、村内にあった雷電社や山王社、稻荷社（字洪谷）の祭礼でも奉納していたという。昭和四十八年（一九七三）頃途絶えたが、昭和五十五年に復活し、町の無形民俗文化財に指定された。しかし、近年、後継者不足から活動は途絶えた。現在は、東条原獅子舞用具が町の有形民俗文化財に指定されている。

鷲宮神社のある東条原地区は、中世（鎌倉時代～戦国時代）、奥州への本道である鎌倉街道中道が通っており、延文六年（一三六二）の「市場之祭文」には、久米原に市が立ったことが記されている。また、天正十八年（一五九〇）には、久喜市の鷲宮神社の社領が久目原（久米原）と和戸にあったことが確認できる。なお、当社付近の小字は「宿屋敷」で、発掘調査により鎌倉街道と推定される道路状遺構や集落跡が発掘されている。

鷲宮神社の西側に位置する当社の別当寺であった大聖院は、明治六年（一八七三）に廃寺となったが、その後、須賀小学校の前身である久米原学校の校舎として利用された。



かつての東条原獅子舞



町指定文化財 東条原獅子舞用具



昭和40年代の東条原獅子舞



御神体



焼失前の旧社殿



この案内板は、宮代町の歴史や文化財を後世に伝えたいという思いによる寄付（ふるさと納税）により建てられたものです。

宮代町